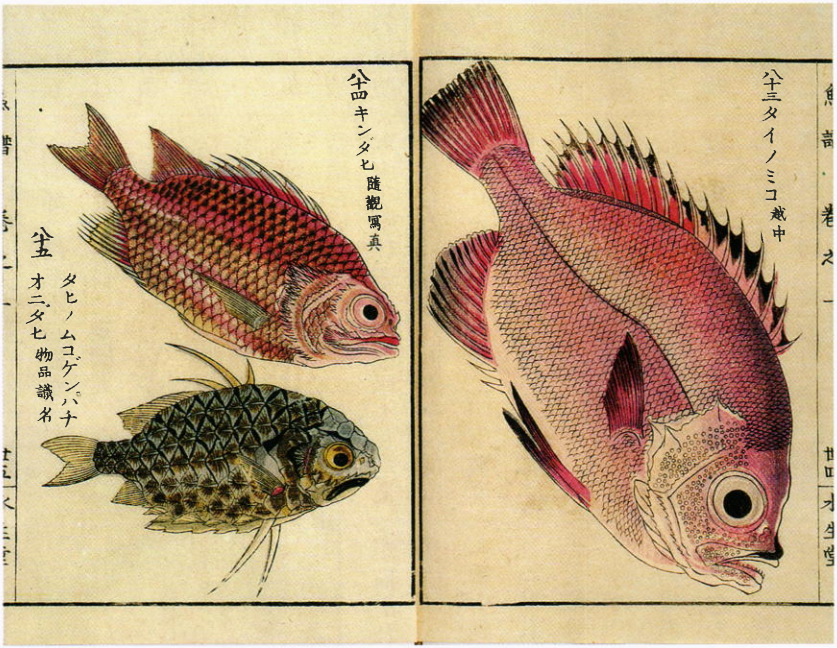
やまとの名品 天理図書館



水族写真

奥倉辰行著

安政４(1857)年刊　２冊

縦25.3cm　横18.1cm

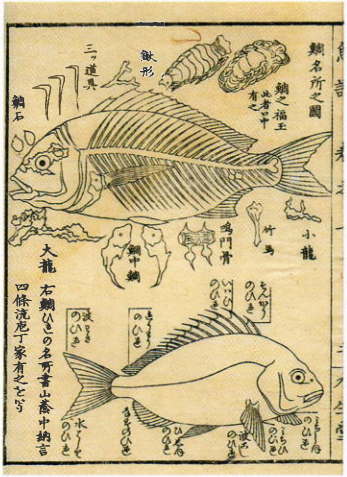
天理図書館
水族写真

本書は、江戸末期のアマチュア博物学者奥倉辰行（～一八五九）の魚類図鑑。辰行の本業は江戸神田多町の青物商。幼い頃から絵がうまく、近所に住む考証学者狩谷棭斎（一七七五～一八三五）に才能を見出され、魚類を描くことを勧められる。棭斎より魚の購入費等の資金援助を受け、毎日のように魚市場に通い、熱心に魚類の写生・調査研究を行ったという。

その成果として辰行は、メダカからクジラの種類に至る千余種の図説をまとめ、十数巻に及ぶ刊行を企画した。まずは当時、「鯛は魚の王」ともてはやされていた鯛類を第一巻「鯛部」として私費出版する。

「鯛部」は上下二冊から成り、上冊に鯛図九十種（鯛類ではないが名に「鯛」とつくものも含む）、下冊に解説を収める。特に鯛図は、費用をいとわず当時の木版印刷技術の粋を尽くした豪華なもの。魚体の色調を細部にわたり表現するために、十数度も色を重ねたであろうと想像される。

下冊の解説には「古来より言伝に、鯛の九ツ道具を所持なせば、物に不自由なし、又福禄を得ると云り」との説明と共に、鯛の骨格図「鯛名所之図」（右図）が描かれている。「鯛の九ツ道具」は、図周辺の小骨「大龍」「鯛中鯛」等。この骨格図は、江戸時代に作成された魚類図譜の大部分が外形を写生し彩色したものであった中では、珍しいものである。



残念なことに「鯛部」以降の巻は、資財が続かず未完に終わった。（天理図書館　瀬川浩子）

天理図書館のお知らせ　Tel：0743-63-9200　http://www.tcl.gr.jp/
◆平日（午前9時～午後5時半）　土・日・祝（午前9時～午後4時半）
○1月の休館日：年始休館6日まで・26日・31日
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）